

426) 小銭

我輩はどうもガマ口とか財布というのが好きでなくて、その昔は常にバラ銭はそのままズボンの左ポケットに、紙幣は後ろの左ポケットに入れていました。上着はどこかで脱いだひょうしに落とすこともあります、男がズボンを脱ぐときは、よほど深い事情があることが常ですので、まあそんなときにポケットから金が消えて行くと言うのは、やむを得ないことと置いていたからなのであります。そんな或る日、我輩の前に行く紳士が、バラ銭をばらまきながら歩いて行くではありませんか。馬鹿なオッサンやなーと思いつつ腰を屈めてバラ銭を拾おうとすると、私の太股のあたりを滑って行くものがありました。ムムッ、一体これは何だ！前に行くオッサンがバラ撒いたのではなくて、そのバラ銭をバラ撒いたのは誰あろう、この我輩自身であったのです。日々バラ銭を直接ポケットに入れておいたために、ついにポケットがすり減って、穴が開き、ばらまくことに相成ったというわけでありました。